



世代を超えた人々と自然との繋がり、時間の重なりを表現する手法として版築を採用～ Mountain range (山脈) ～ 東京ミッドタウン八重洲アートワーク / 銀座・京橋側 〈作家:栗林隆氏〉 左官施工: 有限会社 むり貫

作家コンセプト

私は、自分の作品の素材として、土を使用することが多い。それは、その場所の性質、文化、そして記憶が土という素材の中に多く盛り込まれているからである。また同時に、地層にも興味がある。地層には多くの意味があり、積み重なった時間、歴史、素材など、多くの情報と共に、今の自分の立ち位置を確認させてくれるものである。

今回、八重洲の地に出現した“Mountain range”という作品は、版築の工法を使い、日本の歴史と八重洲の歴史、記憶を地層にして表したものである。北は北海道から南は鹿児島までの土を使い、中心に、工事の過程で掘り出した土を挟み込み、断面として切り取られた日本列島を意識した。対になる鏡面の断面は、未来と過去の空間を表し、その間の今に生きる自分の姿を浮かび現し、今の自分の存在を確認させる。土の時代が終わり、風の時代の今、山の間を吹き抜ける風のように、我々は新時代へと軽やかに意識を変化させていかなくてはならない。

この作品は、時代と時間と共に形を変え変化し生き続ける、八重洲の新しい象徴なのである。(栗林隆)

